

豊田市中心市街地にあるペDESTリアンデッキの利用意識分析

豊田工業高等専門学校 石原 愛
 豊田工業高等専門学校 正員 荻野 弘
 豊田工業高等専門学校 正員 野田宏治

1. 目的

豊田市の中心市街地に存在するペDESTリアンデッキ(以後デッキと呼ぶ)は、名古屋鉄道(名鉄)「豊田市駅」と愛知環状鉄道(愛環)「新豊田駅」を主に結んでおり周辺施設とも連結している歩行者専用通行路である。しかし、1988年の完成から15年以上経過しているため利用者の不満の声も多く聞かれるようになってきていた。

2005年の万国博覧会「愛・地球博」の開催を機にデッキ上の様々な設備改良が行われた。

豊田高専の都市交通研究室ではデッキ整備改良前の平成16年1月、利用者を対象に、整備に対する満足度の把握を目的とした第1回アンケート調査を実施した。その結果、デッキが抱える様々な問題点が明らかになった。

本研究では、第1回アンケート調査結果を分析し、デッキが抱える問題点が利用者に対しどのような意識構造の形成に影響を与えるのか¹⁾を明らかにし、利用者意識構造の変化を明らかにする。

2. 基礎事項

デッキは名鉄「豊田市駅」と愛環「新豊田駅」間を結び、全長は214m、幅員は3m～5mである。デッキの一部はアーケードで覆われ雨を凌ぐこともできる。第1回アンケート調査以降、新たに整備された内容を表-1に示す。

3. 第1回アンケート調査分析結果

3. 1 アンケート集計結果

(1) 調査概要、回答者属性

平成16年に実施したアンケート調査は、デッキの時間帯別評価、鉄道、周辺施設の利用実態を把握することを目的として実施した。質問内容については表-2に示す。

調査は平成16年1月28日～29日にかけて、デッキを利用する平日の通勤通学者を主な対象者とし実施した。アンケートの回収方法は、両駅の改札口に設置した回収箱と郵送により行い、有効回収率は26.5%、回収数は530票であった。

回答者属性は表-3に示す通りである。年齢は30代～50代が大半を占めており、性別は男性と女性の割合が約50%ずつである。職業については会社員が最も多く、全体の40%程度である。

(2) 利便性・治安

デッキの雰囲気と治安は夜間の評価が低く、利便

表-1 デッキの整備内容

項 目	内 容
アーケードの整備	幅員拡張, クランク箇所の改良
床舗装	ノンスリップタイルの張替え
修景設備	花壇の構造変更, ベンチの設置
サイン整備	広域地図, LED文字情報装置の設置
排水設備	側溝の新設
照明設備	更新

表-2 平成16年実施アンケート調査項目²⁾

・個人属性を得るための項目 (性別、年齢、住所、職業、免許の有無)
・鉄道の利用に関する項目 (駅の連絡性、使用理由、頻度、運賃等)
・デッキ利用時間帯別の意識調査項目 (雰囲気、利便性、治安、照明の明るさ等)
・周辺施設利用度に関する項目 (認知度、利用度、目的等)
・自由記述(日常感じていること、要望など)

表-3 回答者の属性 (%)

性別 (N=526)		職業 (N=525)	
男	43	中高生	6
女	57	大学生	6
年齢 (N=521)		会社員	41
10代	8	公務員	6
20代	15	自営業	3
30代	19	主婦	15
40代	21	パート	10
50代	18	フリーター	1
60代	12	無職	8
70代以上	7	その他	5

性については朝の評価が特に低いという結果であった。これらの評価要因を明らかにするため、関連性のある項目をクロス集計した結果、雰囲気と治安の評価はデッキ上の照明設備、スケートボードの若者についての項目と関係があり、利便性の評価はデッキ上の段差や階段の存在に関係があることが分かった。

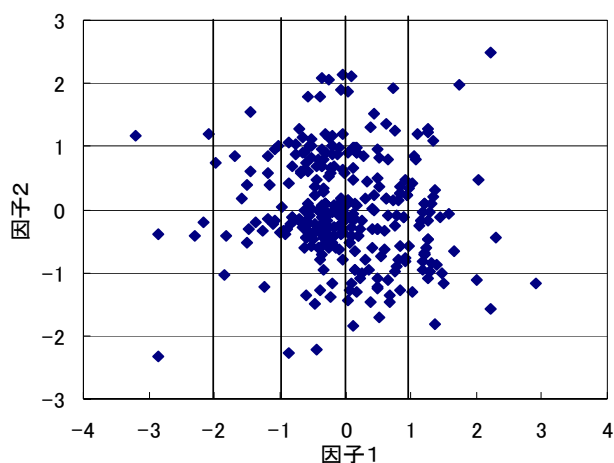


図-1 因子得点 (朝)

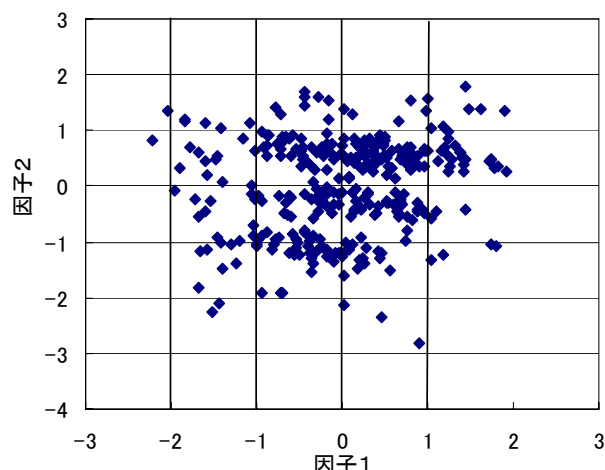


図-2 因子得点 (夜)

表-4 集計結果(朝) (%)

因子1	デザイン			キレイ			雰囲気		
得点	-2~-1	-1~0	0~1	-2~-1	-1~0	0~1	-2~-1	-1~0	0~1
良い	0	15	66	5	27	75	0	2	39
普通	29	57	25	19	34	10	29	95	61
悪い	71	28	9	76	39	14	71	3	0
因子2	通路長さ			段差			利便性		
得点	-2~-1	-1~0	0~1	-2~-1	-1~0	0~1	-2~-1	-1~0	0~1
良い	3	15	7	53	36	20	100	23	0
普通	53	60	20	27	25	13	0	77	45
悪い	10	25	73	20	40	66	0	0	55

表-5 集計結果(夜) (%)

因子1	キレイ (ゴミ)			雰囲気			治安		
得点	-2~-1	-1~0	0~1	-2~-1	-1~0	0~1	-2~-1	-1~0	0~1
良い	11	13	43	0	1	10	0	0	1
普通	3	40	46	0	10	75	0	7	47
悪い	86	47	11	100	89	14	100	93	52
因子2	デザイン			キレイ (ライト)			照明		
得点	-2~-1	-1~0	0~1	-2~-1	-1~0	0~1	-2~-1	-1~0	0~1
良い	2	8	48	0	0	95	4	2	25
普通	26	70	43	0	58	5	6	8	29
悪い	72	23	9	100	42	0	91	91	45

3. 2 時間帯別利用意識分析

時間帯別の評価項目について因子分析を行う。因子分析の項目としては、時間帯別の質問項目である①デッキの長さ、②デザイン、③キレイさ、④照明、⑤植物、⑥段差、⑦雰囲気、⑧利便性、⑨治安の評価項目を選定した。因子分析の結果を図-1, 2に示す。図中の各因子を明らかにするため因子得点の増減に大きな変化をもたらすアンケート項目について集計を行った。集計結果を表-4, 5に示す。

朝の因子1について、因子得点と満足度をみたものが表-4である。デザインについてみると、0~1では良いとする比率が高く、-2~-1では悪いとする比率が高い。この傾向は、キレイさや雰囲気についても言える。従って、この結果から、朝についての因子1はデッキのデザインやキレイさの項目が主に関係する、設備的な景観要素であると考えられる。また、因子2についてはデッキの長さ、段差等の項目が関係し、デッキの移動抵抗であると考えられる。夜については、デッキ上のキレイさ等が関係する、デッキの雰囲気の要素が因子1であり、因子2は照明やライトアップが関係する、治安の要素であると考えられる。

因子分析の結果、以上を総合すると朝の評価については景観、設備等のハード的な要素に影響を受け、夜の評価では雰囲気や治安といったソフト的な要素に大きく影響されるということが明らかとなった。

4. 今後の展開

今後、前回のアンケート内容を改良し、デッキ整備後である現状の利用者意識をアンケート調査により把握する。また、前回の調査結果と比較し、整備前後の利用者意識変化を明らかにする。

また、デッキにおいて照度等の実測を行い、整備以前に行った実測結果と比較することで物理的な変化量も求めたいと考えている。

参考文献

- 1) 山岡俊一, 藤田素弘, 松井寛:「地区交通整備事業の進捗段階と住民参加の意識構造に関する研究」
- 2) 蒲原浩平:「豊田市駅と新豊田との相互乗り換え特性に関する研究」、2004